

要保存

唐崎の子どもを伸ばす

家庭学習の手引き

～自ら進んで学ぶ子どもを育てるために～

(改訂版)



小学校6年生・中学校3年生を対象にした全国学力・学習状況調査の過去の結果から、学力と学習・生活環境は大いに関連性があり、「学力は家庭学習で向上する」ということがわかってきました。小学校の学習は、将来児童が社会人として自立するための基礎となる大切なものです。学校で児童の学力向上に取り組んでいくと同時に、学校と家庭が連携することで、学習内容がより確かに定着し、学力が伸びていくと考えます。

この「家庭学習の手引き」は、全国学力・学習状況調査や学びの基礎チャレンジ等の結果及び児童の実態を踏まえて、各学年の教員で話し合い、家庭学習のすすめ方についてまとめたものです。お子様と一緒にご覧いただき、家庭学習の手助けとしてご活用いただければ幸いです。

大津市立唐崎小学校

1 家庭学習の意義

家庭学習がなぜ必要なのでしょう。家庭学習によって、次のような教育的効果が期待できます。

① 学習内容の定着

学校で学習したことを家庭で復習することにより、習熟・定着を図ることができます。特に漢字や計算などは、毎日繰り返し練習することで定着していきます。学校で「わかった」ことが、反復練習によって「できる」という自信に変わります。

② 脳の活性化

読み・書き・計算を毎日繰り返すことは、脳の活性化につながると言われています。脳も手足の筋肉と同じように、毎日繰り返し使うことで活発に働くようになるのです。鍛えれば、鍛えるほど発達し、たくましくなって、脳がいろいろなことにうまく使えるようになります。小学生のうちからこつこつと脳を鍛えましょう。

③ 学ぶ習慣をつける

毎日家庭学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣が身につきます。毎日続けることで、やがて、当たり前前の習慣になります。少しずつでも継続することが大きな力につながります。低学年のうちから毎日欠かさず家庭学習をすることが大切です。

④ がまん強さ・根気・集中力をつける

家庭学習の最大の敵はテレビやゲーム、スマートフォンなどの誘惑です。この誘惑に打ち勝つことにより、がまん強さ、根気、集中力を養うことができます。テレビやゲーム、スマートフォンの時間を決めて学習や読書等の時間をしっかりと確保したいものです。そのためには、テレビを消す、みんなで読書をするといった家族全員の協力が必要なのは言うまでもありません。



⑤ 家族のふれあい



「音読をしているとき、横で聞いてあげる」、「勉強が分からないとき、教えたりいっしょに調べたりしてあげる」など家庭学習をしている子どもに親が関わることによりコミュニケーションが図れます。家族のふれあいの機会が増えることは、子どもの精神の安定につながり、心身も頭脳も健やかに育ちます。

2 家庭学習のポイント

家庭学習の意義は前述のとおりですが、効果が上がるかどうかは親の姿勢いかににかかってきます。子どものやる気を引き出すようなはたらきかけをお願いします。

① 決まった時間に毎日こつこつする

学校では、各学年に応じた宿題を毎日出しています。学校が休みの日でも例外ではありません。家庭学習はとにかく毎日続けることが大切なのです。習い事やお出かけ等で予定が組みにくい日もあるかと思えます。その場合は、先に済ませるとかテレビやゲームはなしにするなどして時間を生み出すことも必要になってきます。家族で十分話し合い、実行してください。

② 集中して学習する

学力を伸ばすためには、集中して学習に取り組むことが大切です。長時間学習することで成果が上がるとは言えません。短時間で集中して勉強することが長続きのこつです。学年×10分を目安にして集中して頑張ることを心がけてください。

③ 家庭学習をしている時は、テレビを消す

テレビを見ながら、おやつを食べながらの「ながら勉強」は厳禁です。また、テレビの音が聞こえるような環境も子どもは集中できません。見たい番組は録画するなどして工夫しましょう。静かに学習できる環境をつくってあげるのは親の役目です。

④ 整頓された場所で、よい姿勢で学習する

整頓された机に向かって、よい姿勢で学習するようにしましょう。マンガやゲームなど気が散るようなものが近くにあっては学習に集中できません。親の目が行き届き、本人が安心して落ち着いて集中して学習できる環境づくりが大切です。

⑤ 子どものがんばりを認め、ほめて励ます

親や教師が、子どものがんばりを認め、ほめたり励ましたりすることにより、自信がつき、進んで学習しようという意欲が高まります。つつい親は口うるさくなりがちですが、強制したり、間違いをきつく叱ったりすることは逆効果になります。

⑥ 学力アップは規則正しい生活から

「早寝、早起き、朝ご飯」は、生活リズムの大原則です。生活のリズムを整えることが学力向上につながることは、調査でも明らかになってきています。夜遅くまで勉強して睡眠時間が少ない子よりも7時間以上睡眠時間を確保している子の方が成績がよいというデータもあるそうです。

学校でも家庭でも生き生き元気に学習に取り組めるように、早く寝かせ、早く起こし、朝ご飯をしっかりと取らせましょう。就寝時間は、それぞれの家庭の事情があるかもしれませんが、7時間以上の睡眠時間はぜひ確保したいものです。

3 家庭学習の方法

- (1) 担任から出る「宿題」を最初に取り組みせましょう。
- (2) 時間が余ったら自主学習参考例の中から選んで取り組みせましょう。(高学年は、自分で考えてもよいでしょう。)
- (3) どうしても勉強に飽きてしまうときは、読書やお絵かきでも何でも構いませんので、必ず机に向かわせてください。「机に向かう」という習慣が大事です。
- (4) 勉強が終わったら、次の日の準備をさせてください。鉛筆を削り、準備物をしっかりと整え、明日の学習予定をしっかりと頭に入れておくように心掛けてください。

(自主学習 参考例)

国 語	算 数	社会・理科・生活科・総合・その他
<ul style="list-style-type: none"> ・漢字練習 ・漢字ドリル ・意味調べ ・日記 ・音読・視写 ・テストのやり直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算練習 ・計算ドリル ・教科書の問題 ・百ます計算 ・テストのやり直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容や関連した興味のある内容を本やホームページ等の資料などで調べる。 ・授業で学習したことをノートにまとめる。
日常生活での取組	<ul style="list-style-type: none"> ・読書をしましょう。見えない学力を高めます。 ・国語辞典、漢字辞典、その他図鑑を身近に置いて調べましょう。 ・日本地図、世界地図、地球儀を身近に置いて調べましょう。 ・小学生新聞など、新聞に目を通してみましょう。 ・ニュース番組を親子で見ても話し合ってみましょう。 ・自然や生き物とふれあい、観察してみましょう。 ・詩歌の暗唱をしましょう。 ・余裕があれば、市販のドリルや問題集にも取り組んでみましょう。 ・将棋や囲碁、百人一首など頭を使うことをしましょう。 ・家の仕事を進んでやりましょう。 	



4 各学年の家庭学習について

各学年の子どもたちの発達段階に応じた保護者としての関わり方や学習の重点箇所などについてまとめているので参考にしてください。

1、2年生

学習時間の目安
10～20分程度

■こんな時期です■

- 何でも知りたがっています。
- がんばったこと、よいところをほめてほしいと思っています。
- 一人で学習することや、やり方を決めることはまだ難しいです。

◇いっしょにして、やる気をおこす◇

いっしょに、学習内容や学習方法を決めましょう。
できたことをほめることで、意欲が高まります。

ポイント

①子どもの学習に関心を!

「家でも勉強する」という習慣をつけましょう。

- ・少ない時間でもいっしょにやる。
- ・いっしょにできないときは後で目を通す。

②学習環境について

学習机など「いつも決まった場所」をつくりましょう。

- ・テレビは消す。せめて音量を下げるように家族が協力する。子どものやる気につながります。

③家庭と学校の協力

学校からの連絡やお便りをいっしょに確かめましょう。

- ・毎日連絡帳を開いてサインする。子どもも担任も安心します。

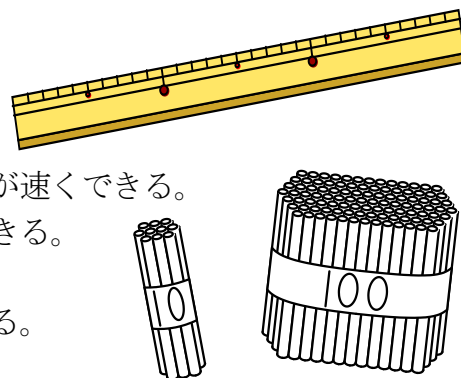
学年で身につけたい力

習慣づけの1年生

- ・鉛筆を正しくもって字が書ける。
- ・ひらがな、カタカナが読めて書ける。
- ・助詞「てにをは」を使い分けて文章を書く。
- ・配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・たし算やひき算が正確にできる。

逃げない子にする2年生

- ・配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・順序よく話をするができる。
- ・九九がすらすら言える。 ・たし算、ひき算、かけ算が速くできる。
- ・筆算では定規を使い、位をそろえて書きながら計算できる。
- ・決められた長さの直線を正確に引くことができる。
- ・時計（アナログ）を見て、何時何分か読むことができる。



3、4年生

学習時間の目安
30分～40分

■こんな時期です■

- いろいろなことに興味を示し、行動範囲も広がります。
- 好きなことに熱中するようになります。
- 自分でやろうとすることが増えてきますが、まだ手助けは必要です。

◇認めて、ほめて、自信をつける◇

家族の温かいアドバイスや励ましの言葉によってやる気を起こします。
宿題をみるなど手助けして応援すると、少しずつ自分でできるようになります。

ポイント

①子どもの学習に関心を!

がんばりを見逃さず、励ましの言葉をかけましょう。

- ・分からないところはいっしょに考える。
- ・子どものちょっとしたがんばりをほめる。

②学習環境について

学習を始める時間をいっしょに決めましょう。

- ・テレビやゲームは家族で話し合って時間を決める。

③家庭と学校の協力

学校からのお便りを家族に手渡す習慣をつけましょう。

- ・置く場所を決める。
- ・食事のときに渡すなど約束する。

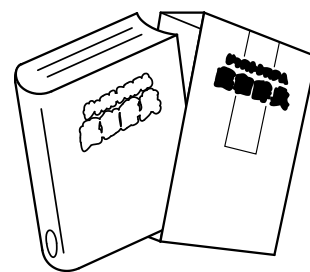
学年で身につけたい力

分岐点を乗り越える 3年生

- ・配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・短い詩や百人一首をいくつか暗唱できる。 ・国語辞典を使って意味が調べられる。
- ・簡単なことわざを知っている。 ・ローマ字を読むことができる。
- ・かけ算やわり算など正しい手順で計算できる。
- ・コンパスを正しく使うことができる。
- ・はかりをつかって重さが読める。
- ・主語と述語の意味がわかる。

「9歳の壁」を破る 4年生

- ・配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・国語辞典や漢字辞典を手元に置いて使い方に慣れる。
- ・文と文のつながりを考えながら、指示語や接続語を使う。
- ・わり算の筆算ができる。
- ・ローマ字を適切に読み書きできる。
- ・地図帳を使って見知らぬ場所や地名を調べることができる。
- ・47都道府県の位置が分かり、正しく都道府県名を書くことができる。



5、6年生

学習時間の目安
50分～60分

■こんな時期です■

- 自分でできていると思っているので、言葉かけに配慮が必要です。
- 得意な教科や苦手な教科を意識するようになります。
- 体も心も急激に変化します。バランスがくずれ、不安定になることもあります。成長を見守ってほしいと思っています。

◇見守って 伸ばす◇

子どもの話をよく聞き、成長を温かく見守ることで、将来の夢や目標をもって努力するようになります。

ポイント

①子どもの学習に関心を!

計画を立てて自力で学習を進めるように見守りましょう。

- ・子どものちょっとしたがんばりをほめる。
- ・他の子と比べず、昨日のわが子と比べてほめる。

②学習環境について

自分に合った生活リズムをつくりましょう。

- ・夕食前、早朝など、学習に取り組む時間帯を決める。

③家庭と学校の協力

思春期を迎え、子どもの心と体について気になることがあれば、担任の先生と話し合しましょう。

- ・家庭でも学校でも子どもの話をよく聞く。

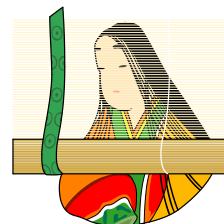
学年で身につけたい力

大きくジャンプアップする 5年生

- ・配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・今まで習った漢字を使った熟語の8割以上が書ける。
- ・小数のかけ算・わり算ができる。
- ・分母が同じ分数のたし算・ひき算ができる。
- ・百分率を使った問題を解くことができる。
- ・パソコンでローマ字入力し、目的に応じて資料を探ることができる。

中学校生活に希望が持てる 6年生

- ・小学校で習得すべき漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・小学校で習う漢字を使った熟語の8割以上が正しく書ける。
- ・歴史に残る古文のいくつかを暗唱できる。
- ・小数と分数のたし算、ひき算、かけ算、わり算ができる。
- ・歴史上の人物や出来事について、だいたい説明できる。
- ・三権分立など、社会用語のだいたいが説明できる。
- ・日本や世界の国々の主な国の位置を正しく示すことができる。
- ・理科の実験道具の正しい扱い方を知っている。
- ・パソコンでローマ字入力ができる。目的に応じて資料を探し、活用することができる。



高学年になると中学校に向けた学習についても意識していく必要があります。ここでは、小学校と比べて中学校では何が変わるのかとその変化に向けた取り組みのポイントについて述べます。以下を参考にいただき、話し合う機会を持っていただけたらと思います。

◆教科ごとに先生が変わります◆

国語、数学、社会、理科、英語、音楽、美術、…。中学校では、教科ごとに教える先生が変わります。小学校のように、担任の先生がほとんどの教科を教えるわけではありません。よって、板書の仕方、ノートのまとめ方、宿題の出し方などが先生によって違ってきます。それぞれの先生の教え方にいかに早く慣れて対応していくかが大事になってきます。

◆テストのやり方が変わります◆

小学校では、各教科で単元の学習が終わるたびにテストがありますが、中学校では中間テストや期末テストといった定期テストに変わります。自分の現時点での学力をはかる実力テストもあります。テストの回数は減りますが、テストの範囲が広がるのです。そこで、復習を中心としたテスト対策が必要となってきます。

◆生活のリズムが変わります◆

中学生になると授業だけでなく部活動も始まり、学校で過ごす時間が長くなります。その分、帰宅時間が遅くなります。きっと小学校の時よりも疲れて家に帰ってくるようになると思います。そして、余裕のあった家庭での時間が限られたものとなってきます。その中で、家庭学習の時間を確保していかなければなりません。



ポイント

①授業を大切に！

教科によっては予習をして授業にのぞむ(国語の意味調べや音読、社会の調べ学習等)。
※ 中学校では、英語の意味調べや音読も大切になってきます。

授業でわからなかったところは先生や友達に聞いてその場で解決する。

出された宿題や課題は最初に取り組み、確実に提出する。

②テスト対策を！

わからなかったところは何度も繰り返して復習する。
(次の日、3日後、1週間後)

漢字や社会科の暗記ものは宿題だけでなく、毎日繰り返して覚える。

学期末テストの前には計画を立てて学習に取り組む。

③学習時間の確保

テレビやゲームの時間を制限していく。大人の都合で子どもの時間を犠牲にしない。

どんな日でも毎日学習する習慣を身につける。

中学校では2時間が目安。根気よく集中して取り組む時間と環境を整える。

